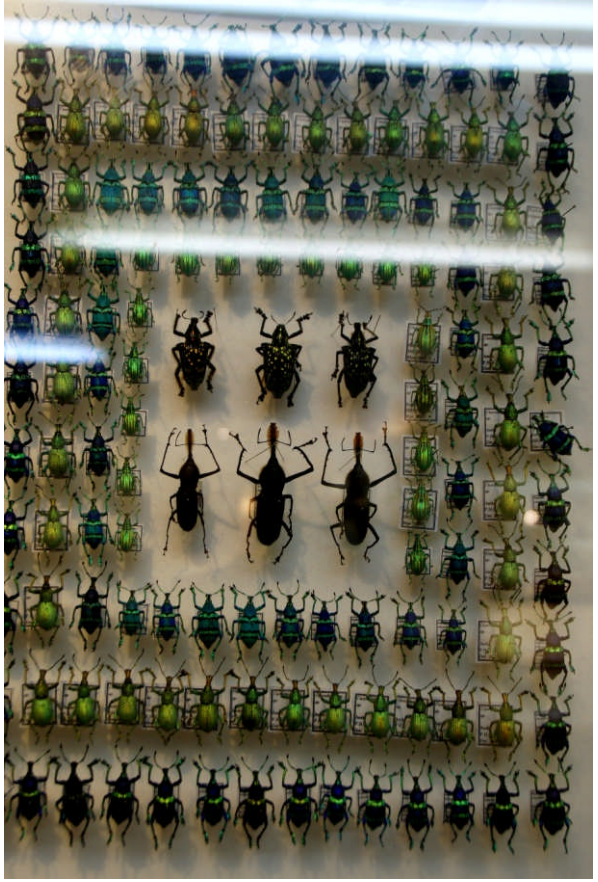
池袋昆虫館訪問記

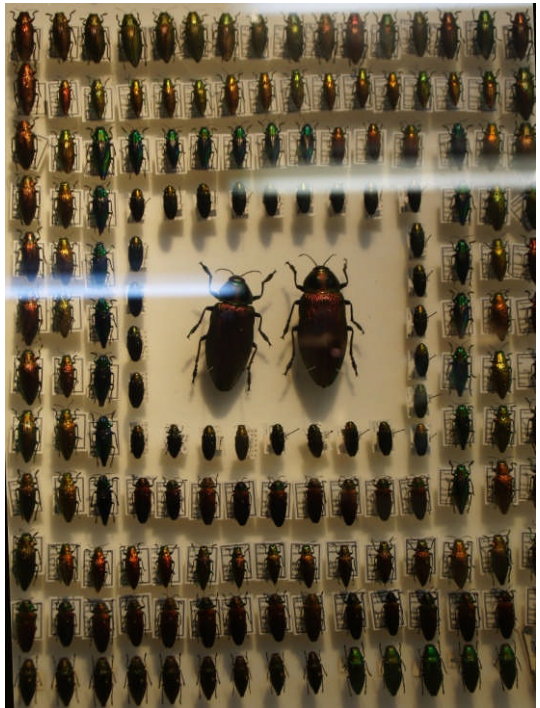
2011年7月　金子晴彦

昆虫館入口

周囲の壁は全面昆虫ケースで埋まっている。総数1000箱、20万匹とか。
未だに分類、整理されていない昆虫が紙袋に包まれて大量に積み上げられている。毎週一日、5人の昆虫ボランティアが集まりその整理と名前の同定を実施中だがあと10年はかかるとか。



ちょっと眼がくらむほどの数。ナフタリンの強烈なにおいに頭くらくら。よくもまあ集めたものだ。



新井館長とボランティアにより整理・分類中の昆虫

この膨大な昆虫をどこか引き受けてくれるところはないか

千年画廊・河田
店長も思案にくれる

- 豊島区議会で昆虫館の建設が決議され、全標本を寄贈することになっていたがバブル崩壊で沙汰やみとなってしまい、昆虫の行き場は決まっていない。
- あまりに多いこと、管理が容易ではないこと、さらには分類整理されていない昆虫が無数にあり、その対応のために専門の学芸員が必要なこと、、、、とにかく寄贈を受けても、あとあとが大変なことになりそう。
- また収容する部屋の換気、湿度維持も大変。
- 金額にすれば億の単位にもなろうが、これを全面保管、管理するとなれば追加経費が莫大で誰もが二の足を踏み、結局行き先は決まっていない。
- そこで安く売ってしまおうなどと言う話も出た模様。価値は分かるがあまりの量に圧倒されてしまった。
- よほどの好事家がいない限り、これだけの昆虫とはつきあいきれまい。さて、どなたが？